

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	エンジンオイル5W-30 SP(API) CF相当全合成油ドラム缶
会社名	株式会社MonotaRO
所在地	〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名	商品お問合せ窓口
電話番号	0120-443-509
FAX番号	0120-289-888
緊急連絡先	所在地と同じ
推奨用途	ガソリンエンジン用潤滑油
使用上の制限	定められた用途以外使用しないこと
整理番号	M241218

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

GHS分類に該当するデータは得られていない。

GHSラベル要素

情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
水素化処理された重質パラフィン蒸留液 (Distillates, Hydrotreated Heavy Paraffinic)	84.0～94.0%	不明	不明	不明	64742-54-7
リン酸亜鉛塩 (Phosphorodithioic acid O,O-dialkyl(C=1-14) esters zinc salts)	0.3～3.0%	不明	不明	不明	68649-42-3
EPポリマー (1-Propene polymer with ethene)	0.1～5.0%	不明	(6)-10	既存	9010-79-1
添加剤混合物	5.0～10.0%	不明	不明	不明	該当なし

4. 応急措置

目に入った場合

- ・直ちに多量の清浄な水にて20分以上洗眼する。
- ・眼の刺激が続く場合は医師の診察、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに流水で皮膚を20分以上洗うこと。
- ・汚染された衣服と靴を脱ぎ、汚染区域を隔離させること。
- ・再使用する前に衣服と靴を完全に洗うこと。
- ・皮膚に刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。

吸入した場合

- ・新鮮な空気のある場所に移動すること。
- ・呼吸していない場合、人工呼吸を行うこと。
- ・呼吸困難な場合、酸素吸入を行うこと。
- ・呼吸に関する症状が出た場合、製造者/供給者又は所管官庁が指定する緊急処置に関する情報源(医師)に連絡すること。

飲み込んだ場合

- ・意識のない人には何も食べさせないこと。
- ・嘔吐を誘発するかどうかについて、医師の助言を受けること。
- ・直ちに医師の診察、手当てを受けること。
- ・口をゆすぐこと。

応急処置及び医師の注意事項

- ・医療従事者は該当物質の情報を知ったうえで保護措置をとること。

5. 火災時の措置

適切な(及び不適切な)消火剤

- ・小型火災:乾燥砂、乾燥化学剤、耐アルコール泡、水噴霧、一般泡沫、二酸化炭素(適切な消火剤)
- ・物質は高温になる可能性がある。
- ・不適切な消火剤:高圧注水

火災時の特有危険有害性

- ・熱、火花、火災によって発火する可能性がある。
- ・火災時に刺激性及び毒性のガスを発生させるおそれがある。
- ・吸入した場合有害。

火災措置の場合、着用する保護装備及び予防措置

- ・物質は高温になる可能性がある。
- ・漏洩物は汚染の原因となるおそれがある。
- ・接触時に皮膚と目に火傷を引き起こすおそれがある。
- ・消火水の処分のために溝を掘って閉じ込め、物質の散らばりを防ぐこと。
- ・危険でなければ火災区域から容器を移動させること。
- ・タンク火災時、鎮火した後も大量の水で容器を冷やすこと。
- ・タンク火災時、圧力放出装置から高音が鳴ったり、タンクが変色する場合はすぐに退却すること。
- ・タンク火災時、炎に包まれたタンクから退却すること。

6. 漏出時の措置

人体を保護するために必要な注意事項

- ・漏洩物に触れたり、その上を歩いたりしないこと。
- ・全ての着火源を取り除くこと。
- ・危険でなければ漏れを止めること。
- ・粉塵の発生を防ぐこと。
- ・避けるべき物質及び条件に注意すること。

環境に対する注意事項

- ・水路、下水溝、地下室、密閉空間への流入を防ぐこと。

浄化又は除去方法

少量の漏出:多量の水で汚染区域を洗浄すること。
 ・多量の漏出:液体漏洩物から離れたところで溝を作ること。
 ・きれいなシャベルで漏洩物を清潔で乾燥した容器に入れ、ゆるく閉じた後に容器を漏出区域より移動させること。
 ・粉末漏出:プラスチックシートで覆い拡散を防ぎ、乾燥状態を保つこと。
 ・少量の漏出:砂、不燃性の物質で吸収し、容器に入れること。

7. 取扱い及び保管上の注意 安全な取扱い方法

・取扱い後は手洗いを十分に行うこと。
 ・避けるべき物質及び条件に注意すること。
 ・工学的管理及び個人の保護方法を参考にして作業すること

安全な保管方法

・涼しく乾燥した場所に保管すること。
 ・避けるべき物質及び条件に注意すること。
 ・密封して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
水素化処理された重質パラフィン蒸留液 (Distillates, Hydrotreated Heavy Paraffinic)	未設定	未設定	未設定
リン酸亜鉛塩 (Phosphorodithioic acid O,O-dialkyl(C=1-14) esters zinc salts)	未設定	未設定	未設定
EPポリマー (1-Propene polymer with ethene)	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値／天井値
水素化処理された重質パラフィン蒸留液 (Distillates, Hydrotreated Heavy Paraffinic)	未設定	未設定
リン酸亜鉛塩 (Phosphorodithioic acid O,O-dialkyl(C=1-14) esters zinc salts)	未設定	未設定
EPポリマー (1-Propene polymer with ethene)	未設定	未設定

2)適切な工学的管理

- ・工程隔離、局所換気をして空中浮遊物質濃度を暴露限界値以下に維持すること。
- ・換気速度を調整することで条件に合わせること。

3) 個人保護具

呼吸器保護：

- ・暴露される粒子状物質の物理化学的特性に応じた呼吸用保護具を着用すること。
- ・粒子状物質の場合は次のような呼吸器保護具を勧める。顔面部濾過式防塵マスク又は空気濾過式防塵マスク(高効率微粒子濾過材)又は電動ファン付き防塵マスク(粉塵、ミスト、ヒューム用濾過材)
- ・事前に警告特性を考慮すること。

眼の保護：

- ・眼に刺激を起こしたり、その他健康上の障害を引き起こす可能性がある物質から目を保護するため通気性の良いゴーグルを着用すること。
- ・作業場から近いところに洗眼器と安全シャワーを設置すること。
- ・この物質に直接暴露、又はその可能性がある場合、公認された化学物質用の保護眼鏡を着用すること。

手の保護：

- ・化学物質の物理的・化学的特性を考慮して適切な材質の保護手袋を着用すること。
- ・この物質に直接暴露、又はその可能性がある場合、公認された化学物質用の安全手袋を着用すること。

身体の保護：

- ・化学物質の物理的・化学的特性を考慮して適切な材質の保護衣を着用すること。
- ・この物質に直接暴露、又はその可能性がある場合、公認された化学物質用の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

形状

液体

色

淡黄色

臭い

石油化合物臭

融点／凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界 下限
／可燃限界

データなし

上限

データなし

引火点

238℃

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

10.4mm²/s (100℃)

溶解度

データなし

n-オクタノール／水分配係数

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び／又は相対密度		比重:0.85
相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		情報なし
化学的安定性		- 常温常圧条件で安定的である。 - 加熱時に容器が破裂する可能性がある。 - 一部は燃える可能性があるが、容易に発火はしない。
危険有害反応可能性		情報なし
避けるべき条件		着火源(熱、火花、火炎)
混触危険物質		可燃性物質、刺激性/毒性ガス
危険有害な分解生成物		情報なし
11. 有害性情報		
急性毒性	経口 経皮 吸入	データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 (気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気) データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		
呼吸器感作性		データ不足のため分類できない。
皮膚感作性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データ不足のため分類できない。
生殖毒性		(生殖毒性)
		データ不足のため分類できない。
		(生殖毒性・授乳影響)
		データ不足のため分類できない。
		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		データ不足のため分類できない。
誤えん有害性		動粘性率が不明のため、分類できないとした。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期(急性)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
水生環境有害性 長期(慢性)		(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

1),2) 廃棄方法と廃棄上の注意

・事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。
・その他、各都道府県の法令に従って処理すること。

14. 輸送上の注意

＜海上輸送＞

1) 国連分類： 該当なし

2) 国連適正船名： 該当なし

3) 運送での危険性等級： 該当なし

4) 包装： 該当なし

5) 海洋汚染物質： 該当なし

6) 使用者が運送または運送手段に関し知っておくべき必要がある対策

・火災時の非常措置の種類:該当無し
・流出時の非常措置の種類:該当無し
・ADR / RID, AND, IMDG, ICAO / IATAに基づく輸送規制: 該当無し

＜日本国内輸送＞

下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
消防法 危険物 第4類 第4石油類 危険物等級Ⅲ

輸送の特定の安全対策及び条件:

運送容器及び包装の外部に、品名、数量、危険物等級及び「火気厳禁」の表示をする。容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

容器等級： 該当なし

海洋汚染物質： 該当なし

使用者が運送又は運送手段に関する特別な安全対策

☐ 火災時非常措置の種類： 該当なし

☐ 流出時非常措置の種類： 該当なし

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9)

毒物及び劇物取締法

鉱油(政令番号:168)(80%-90%)(営業秘密)

非該当

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

非該当

消防法

第4類 引火性液体 第四石油類

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

労働基準法

がん原性化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号)

16. その他の情報
参考文献

製造元メーカー提供資料

NITE GHS分類結果一覧

JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法

JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、

作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス

日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。あくまでも参考情報として提供するものであります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合は、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用ください。この情報は、新しい情報を入手した場合、予告なしに改訂されることがあります。